

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900382		
法人名	有信アクロス株式会社		
事業所名	ラブラース樹楽 京都伏見 2F		
所在地	京都市伏見区南寝小屋町54		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690900382-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和6年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念『日常生活を家庭的な環境の下で「安全」「安心」に過ごせるもうひとつの我が家、だれでも気楽に過ごせるもうひとつの我が家』のもと、ご利用者様が毎日ゆったりと生活できるよう心掛けている。笑顔を持って、介護業務に務める。職員のスキルに多少格差があるためステップアップ模索中ではあるが、笑い声のあふれる事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るくてゆったりとした事業所の中で、利用者それぞれの暮らし方を尊重され、職員の方に見守られながら生活をされています。お天気の良い日や暖かい日にはその方に合わせて地域やお地藏さんへの散歩や日向ぼっこ、また駐車場でおやつを食べて楽しんでいます。地域とのお付き合いや外出事はコロナウイルス感染症で大変な思いをされてからは見送られています。事業所周辺は工場や会社、マンション、田畑に囲まれ、地域との交流には困難がありますが、運営推進会議は民生委員や自治連合会の会長をメンバーとして、たくさんの地域での情報をもらわれています。独居高齢者が多い地域で、祭りの前日に老人福祉員からお寿司の配食や地域包括支援センターの職員が全戸訪問をおこなうなど関わりが手厚いところです。地域の社会資源としての事業所が参加できる方法を吟味されることで、地域の中での存在価値が増すことを願います。家族には全員に運営推進会議の案内や議事録の送付をおこない、今まで家族会としての活動も大切にされていましたが、コロナ禍で、停滞していますが、今後に期待ができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有・統一は常に管理者と職員で、ユニット会議、全体会議等で再三確認実行している。新人研修でも啓蒙している。	事業所の名前そのものがラプラス樹楽の理念から成り立ち、「樹」で「安心感」と「家族」をあらわし、快適に過ごせるように名付けられたことをそのままに理念とされている。家族や地域にはホームページやパンフレットに掲載し、玄関に掲示して周知している。入居の時にも説明されている。職員には新人研修やユニット会議で説明すると共に、「利用者にどうして暮らしてもらったら理念に沿った日々を過ごしてもらえるのか」を話し合い実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	残念ながら工場地域の中にあり、交流は少ない。 運営推進会議に自治会長や民生委員に出席してもらって、地域と事業所の情報交換をしている。	区民運動会や地域の祭り、地域の行事に参加され、事業所でも「樹楽祭り」をおこない、駐車場で、家族の方や地域の方、利用者、職員と楽しんできたが、コロナ禍で地域の行事共々見送られている。イベントの時はドックセラピーやアコーディオンなどボランティアの方に来てもらい楽しいひと時を持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じ、地域の行事等は可能なかぎりに参加しているが、ここ数年はコロナ感染もあり、ほとんどできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、現状のご利用者様へのサービス内容や事故報告等を行い、参加者の意見をいただき取り入れている。	会議には家族会の会長や副会長、下鳥羽民生児童委員、下鳥羽自治連合会会長、下鳥羽地域包括支援センター職員をメンバーとし、家族には全員に開催の案内を出している。会議では利用者の状況や事故・ヒヤリハット、職員の異動、活動報告及び予定を話され、メンバーからはたくさんの情報や意見が出されている。地域のお祭りのみこし巡行や祭りの日は独居高齢者へのお寿司の配食や布団クリーニング、いきいきサロン、敬老会の昼食の配食など取り組みの情報が得られている。家族全員に会議の案内と議事録を渡されている前向き積極的な姿勢が感じられる。	運営推進会議の開催案内を家族に渡される時に、家族からの意見をもらえるように働きかけられては如何でしょう。また、地域の民生児童委員の方や地域包括支援センターの積極的な取り組みに、まず職員の方の参加で、実績を残されることをお勧めします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に連絡を取ることには少ないが、議事録を持参したり、地域ケア会議に参加している。	伏見区の老人福祉課には提出書類は持って行き、京都市のケア推進課とは常に相談をする協力関係が築けている。集団指導はwebで受けている。地域ケア会議に参加をして、情報交換などの交流をしている。コロナウイルス発症時には京都府新型コロナウイルス感染症担当者に来てもらい、職員は感染症の講義をうけた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で年2回全職員に身体拘束においての内部研修を計画しているが、コロナ感染で年1回程度の実施。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、身体拘束廃止の研修に取り組んでいる。ユニットの入り口は施錠せずに、エレベーターでも1階に下りられる。玄関は手で開けられる。利用者が落ち着きのない時は、原因を職員で話し合い不安要素を取り除くようにしている。職員は利用者が立たれた時は「どうされました？」とまず言葉がけをするように気を付けるなど、利用者が動きを制止された感を持たないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議にてご利用者様に対しての関わりや業務等、気になることや職員自身が負担に感じることも報告しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に参加する、伝達研修を実施する等で、制度や取り組みについて学び、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様・ご家族様にご理解・納得していただけるよう、十分に説明している。また契約について各職員も理解し、ご家族様からの質問に答えられるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は全ご利用者様・ご家族様が参加できるよう案内している。また面会時には、ご意見・ご要望等たずねている。家族会を開催し、他のご家族様の意見や要望、事業所の対応を報告している。	コロナ禍で、家族会の開催は出来ていないが、家族の方からは運営推進会議や面会時、電話で意向や気になる時は聞いてもらえる事が多い。家族は利用者の健康面への配慮から「義歯を作ること」や、歩行が不安定な方な様子を気にかけて、訪問マッサージのリハビリを利用されるようになった方がおられる。このように職員が普段の姿から提案したことを一緒に考えて利用者にとって良い方向で家族の意向も取り入れられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、ユニット会議や日常でリーダーが聞き取り、職員が意見や提案をする場を設けている。	朝の申し送りや申し送りノートに職員が気付いたことを記入し、職員で共有している。ユニット会議で利用者の状態や支援について話し合い、利用者の配席の検討や看取りが3人、食事介助が2人おられた時は、遅番の勤務時間をずらして、夜勤者が一人になる時間を減らし、看取りの方への安定した支援が出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に合わせた外部研修への参加、内部研修の実施等行っている。また参加したい研修等の希望を聞いている。コロナ感染で停滞していた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ここ数年はできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン内容に基づき、傾聴し思いを読み取る努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	密に連絡をとり、面会時にもご家族様の思いを知るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず入居という段階で生活環境が変わることへのダメージを最小限にし、生活習慣をなるべく継続できるように関わる中で‘今’一番何が必要かを見極め支援していくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の変化する生活状況に対応し、家事などできることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神面・医療面など常に報告し相談をして、共に支えていく関係を築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から良く乗っていた市バスに乗って出かける等、個々に合わせた支援をしている。	入居されてから、多くのことを利用者から聞き取り、日々の記録に記入し職員で共有している。編み物が好きな方が落ち着かれない時は毛糸を触られたり、家事が好きな方は、洗濯物を畳む作業で落ち着かれています。長湯が好きな方の様子を家族に伝えるとスイミングが好きで通っておられたのが分かり、ゆっくりと入ってもらうようにしている。また、利用者と話さず中で、学校と自宅をバスに乗って通われていた話を聞き、市バスに乗って出かけるなどの支援をされている。友達が電話をしてこられた時は電話を取り次いで、話が長く見守っている。	入居の時の聞き取りで、利用者のことを家族の方から、いろいろと聞かれています。それ等を活かせるような記録をされることが望まれます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やその日の気分などを見極め、席の配置を変えたり、会話やコミュニケーションがとれるようにフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した時点で、関係もなくなってしまうことが現状ではあるが、行事の案内を送付して事業所に足を運びやすいように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、傾聴・観察し、思いを知る努力をしている。	入居時のアセスメントで、グループホームでの生活の希望について聞き、希望に沿った支援が出来るようにされている。また、職員間の共有は、申し送りノートやアセスメントシート、日々の記録で確認をしている。入居前の生活で、炬燵で寝ておられた方は、居室でシートや敷物を敷き炬燵を置いて、座椅子に座って過ごされていた。。意思表示できない方は、ゼスチャーでのやり取りや表情で判断をして、利用者確認をし、家族にも確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様とのお話や生活歴などの情報を職員同士で共有し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズム、心身の状況を把握し出来ることはしていただけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をもとに日々のケアにあたり、ユニット会議でモニタリングができるようケース検討を実施している。ご本人・ご家族の意見や意向、医療に関する情報も取り入れ計画を作成している。	介護計画の短期目標は3か月、長期目標は6か月を掲げている。ユニット会議で医療情報や家族の意向を聞いたうえで3か月ごとにモニタリングをおこない、あがってきた課題を基に介護計画見直しの必要性を検討し、その方の現状に即した介護計画を作成し、家族、本人の同意を得ている。また、急変時や更新時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入し、職員間で情報共有している。ユニット会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームであるため、他のサービス利用は困難であるが、施設内で取り組める事を模索し介護に取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、できる限り有効活用できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医・看護師とは良好な関係を築くことができ、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き全員が協力医に受診している(隔週で月2回)。協力医と同病院の訪問看護師が医師とずらした隔週2回来所している。訪問看護師は長年同じ方が来られているので、入居者のことをよく分かり、気軽に相談できるなど、信頼関係を持っている。訪問歯科医・歯科衛生は週1回希望者が受診している。下肢筋力強化のために訪問マッサージを受ける方もいる。夜間や緊急時は、24時間オンコールの訪問看護師に連絡をして、協力医の指示を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリーや入院中の状況、退院前カンファレンス等、医療機関と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関を含めたカンファレンスを開催し、ご本人・ご家族への説明を十分に行い、納得した形でターミナルケアが行えるよう取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」で入居時に説明し、確認書をもらっている。今年度3人の方を看取られている。状態変化時に医師、看護師、家族とのカンファレンスをおこない看取りの準備に入られている。また、看取りの研修は訪問看護師と相談して計画していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、訓練を実施し連絡網の徹底を行っている。 地域との協力体制は築けていない。	年2回避難訓練を行い、昼間想定では消防署の立ち合いで、通報と避難誘導をし、利用者も一緒に避難している。3月に京都市の一斉防災行動訓練で地震と夜間想定での避難訓練をする予定である。淀川水系での氾濫区域であり、事業所としては2階への垂直移動避難を考えているが、地域や近隣の会社などとの連携体制を、今後運営推進会議で検討していく予定である。備蓄は水とブランケット、トイレトーパー、ブルーシート、などの備品を準備し、食料品は賞味期限の見直しをしている。事業継続計画は準備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その場に応じた言葉づかいに心掛け、親しみを感じて頂けるように努力している。	入居者への言葉のかけ方や身体拘束防止、虐待防止の話の中でプライバシーについて話しているが、研修はしていない。第二の我が家として、入居時に聞いた本人が喜ぶ呼び名(おかあさんや名前を呼ぶなど)で、親しみを持って呼び、言葉使いも普段の話言葉で、入居者がリラックスして過ごせるよう心がけている。トイレや居室への入室時はノックや声がけなどきめ細かに配慮している。職員の言動で気になった場合は職員同士で声をかけあい、ケースによっては人を交代し、あとで管理者と本社担当者が話を聞いている。	利用者の人格を尊重し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応についての研修に取り組みられ職員間で共有されることをお勧めします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を確認しながら、ケアを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿って支援ができるように傾聴し、思いを大切にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容し身だしなみチェックを行い、ピンやカチューシャなど、オシャレができるようにな物を用意する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のお話から、好みや食べたいものを知る努力をしている。準備や片付けをして頂けるように、声かけなどをす	朝食は泊りの職員が作り、昼食は調理職員が週2～4日入居者から、食べたい物を聞いてつくっている。他の日の昼食と夕食は業者から届くおかずを再調理して提供している。対面キッチン、調理の様子や匂いなどが入居者に身近に感じられている。入居者はお好み焼きやたこ焼きを好まれ、材料を切ったり、混ぜたり、焼いたり、一緒にしてもらっている。また、クリスマスの手作りケーキのトッピングをおこなったり、敬老会では抹茶を一人ずつが立ててお祝いの和菓子と共に楽しんでいる。毎日のおやつタイムでもホットケーキやプリンを利用者と共に作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療と連携し、個々にあった栄養バランス、食事形態で提供している。水分摂取も声かけし、1日の摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い、口腔マッサージも行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見ながら、お一人お一人の排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄ができるようにタイミングを合わせる努力をしている。	入居迄の排泄の様子と入所後の様子の記録で、その方のパターンを掴み、声かけや介助をしている。布の下着やリハビリパンツ、パットの併用などで、トイレに行ける方の見守りや、全介助の方もトイレでの排泄を促し、気持ちよく過ごせるように支援をしている。オムツ使用の方は居室で交換をしている。夜間だけオムツをしている人や、歩行が不安定な方は居室でポータブルトイレを使用している方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療とも連携し、排便コントロールを行っている。なるべく運動や水分・食べ物で自然に排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温度管理、ヒートショックにも気を付け、個々に合わせた入浴介助で楽しんでもらっている。	基本週2回の入浴で冬場はヒートショックに気をつけている。シャワー浴の方は足浴をし、むくみや冷えがある方は、昼間に足浴をしている。2人介助で、できるだけ浴槽につかれるようにして、気持ちよく入れるようにしている。同性介助やシャンプー類は希望を聞いている。浴槽の湯や足ふきマットは一回ずつ変えて気持ちよく入ってもらっている。スイミングに通っていた方は長く浸かられるので、ゆっくり入ってもらうなど、個々に沿った支援をしている。拒否がある場合は職員が変わって声をかけたり、翌日に入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床も含め、個々に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況の確認、服薬時に確実に服薬できる介助方法も検討し支援しているが、まだ時折、飲み忘れ等の事故が発生している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ感染化において、特に散歩を重視し、駐車場でのイベントで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に参加したり、外出行事も企画し季節感を味わっていただける外出を実施しているが、ここ数年は、散歩程度になっている。	調査当日、1階ユニットの入居者が、事業所駐車場テーブルと椅子を出し、外気浴をしながら、ゆったりとしたティータイムと職員との会話を楽しめる姿を見せてもらう。コロナ禍で制限はあるが、日常の散歩は、隣の会社の玄関にあるお地蔵様にお参りし、近くを少し歩いている。新聞をポストまで取りに行ったり、近くのお店まで買い物に行ったりすることもある。春に、同法人のグループホーム事業所から車椅子を借り、入居者全員で近くの川沿いに菜の花と桜を見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってるご利用者様もおられ、自由に話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の掃除は力を入れている。トイレがフロアに近いので、臭いについても不快感のないよう心掛けている。	明るく広いリビングは大きな窓から陽光が入り開放的である。テーブルを3台向きを変えて設え、好きなところに座られ、新聞を読む、テレビを見る、職員や入居者同士でおしゃべりを楽しむ姿が見られる。テレビのコーナーは3人掛けのソファを置き、ゆっくりテレビを楽しめるように設置されている。壁には、作った入居者と職員の名前を記した鬼の顔や桜と鰯の貼り絵が飾られ、別の壁には2月の梅の花が飾られ季節感満載である。ベランダで入居者と職員とで、洗濯物を干したり、取り入れたりもしている。清掃は、主に職員が掃除機とドライモップと消毒をおこない、入居者も帚で掃かれることもある。空調で温度管理、空気清浄機やこまめな換気で清潔に過ごせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席はだいたい決まっているが、自由に過ごしていただいている。気の合わないご利用者様同士のトラブルにも気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境づくり、居室内で過ごされる際は空調管理にも気を付けている。	居室は、ベッド、空調、クローゼットが設置され、カーテンは入居時に好みの物をつけられている。馴染みの布団や衣類、テレビ、整理タンス、床頭台、ワゴン、椅子、時計、加湿器などを持って来られている。化粧品、家族や孫の写真、寄せ書き、手紙・はがき、こけし、ぬいぐるみ、和紙で作ったお人形など好みの物を置いたり、飾ったりして楽しまれている。床にマットを敷き、布団で寝られている方や、炬燵を置いて家での暮らし方と同じスタイルで居心地よく暮らされている。清掃は毎日職員がおこない、入居者もできることを一緒にしている。ドアには本人が認識できるようにそれぞれ違う手作りの表札が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」の把握に努め、自立した生活を促している。		